令和３年度第２回公民館運営審議会資料補足（口頭で説明予定だった主な内容）

１. 芦屋川カレッジ第 38 期生について

受講生数は大幅な減少となりましたが，生徒の皆様にも，感染対策ガイドラインに基づいた，検温・消毒・換気の徹底にご協力をいただきながら，1 年間を通じて無事に予定していたカリキュラムを終えようとしています。残念ながら，飲食を伴う懇親会は中止しましたが，研修見学会は，規模を縮小しながら実施するなど工夫し，親睦を深めてまいりました。更には，係活動でも，例年に比べ制約が多い中，それでも係ごとに役割をこなしていく中で，コミュニティーが築かれ，芦屋川カレッジの伝統である，同期会設立に向けた活動も始まっています。

２. 春・夏の公民館講座等について

春・夏の公民館講座等については，第 1 回の運営審議会資料でもご報告させていただきましたが，委員のご指摘も参考に，「延べ出席者数」「全回出席者数」を追記して再掲しています。なお，春・夏の公民館講座を通じまして，特に中世史講座「芦屋の荘園・芦屋の合戦～中世前期を中心に」について，初めて扱うテーマの講座にもかかわらず、応募者が多く、芦屋市民の地域史への関心が高いことがうかがえました。

また，夏と冬に開講した「音楽史へのいざない」については，1 月 8 日にルナ・ホール事業として開催した演奏会「阪神間モダニズムの音楽　大澤壽人の室内楽より」と，連動した企画とすることで，受講生のホール事業への誘因にも繋げることが出来ました。特に冬の講座では，阪神間モダニズムの音楽をテーマとし，阪神間の音楽文化の草創期に活躍した作曲家や指揮者などの足跡について、第一線の研究者やオペラ歌手が実演も交えて講演し，大きな反響が有りました。

３. 秋・冬の公民館講座について

開講記念講座の「福原残照　清盛伝」では，　兵庫の偉人のひとりである平清盛をテーマに据え，能楽師の梅若基徳さん，狂言師の善竹隆司さん，善竹隆平さんによる朗読劇として企画しました。講座と演劇を融合させた内容に，受講生からも，「公開講座にふさわしい」「学びながら楽しめた」「解説もあり理解が深められた」と好評でした。

なお，全回出席者数が受講生数と比較して減ってしまっている理由については，各講座で，3 回若しくは 6 回を通じて大きなテーマは一貫しているものの，回毎に替わるテーマについて，受講生が関心の高い講座のみ選別して受講いるものと分析しています。

土曜日開催の講座については，講師都合もありますが，平日のカレッジ及び大

学院では学べない方にも学びの機会を設ける目的もございます。

４，講演会・公開セミナー

7 月に続き，11 月の家庭教育セミナーでも，Wi-Fi 環境が整っている 201 室をスタジオとして活用し，全編オンラインでライブ配信を行いました。オンデマンドにも対応し，500 名の参加があるなど，引き続き好評を得ました。

例年実施の「古典の日セミナー」については，今年度は休止しました。

芦屋市立病院公開講座についても，新型コロナ感染症拡大防止の観点から，病院側と調整し，今年度の開催は見送りました。

５，常設展示事業

同名の公民館音楽会と連動した，～原田宿命の愛したダンス展～では，音楽会の参加者でもあった，音楽・舞踊の研究者の注目を集め，今回の展示をきっかけに、原田氏所蔵の舞踊資料や文献が，展覧会終了後にまとめて神戸女学院大学に収蔵されるキッカケとなりました。

「坂倉準三と芦屋市民センターの建築展」では、展示準備中に、芦屋市民センターを芦屋市の文化中核として愛して下さっている，設計に携わってこられた建築家や建築史研究者が協力を申し出てくださり、それぞれ資料や文献を貸し出して下さいました。連動して開催した太田隆信氏による講演会とともに、芦屋市民センターの建築史を，参加者の皆様と共にひも解く貴重な機会となりました。幅広い年齢層の来館があり、展示風景や芦屋市民センター館内の写真が，Twitter や Facebook などの SNS でも多数紹介されました。

６，令和４年度芦屋川カレッジ，芦屋川カレッジ大学院の学習計画と募集定員

令和 4 年度も，別添の入学案内参照の，非常に魅力的なカリキュラムを組む事が出来ました。募集定員は，新型コロナウイルスの感染拡大を防止しながら，年間を通じて実施出来るよう，会場のキャパシティ等を考慮して 72 名とさせていただきますが，受講生募集のチラシや，ホームページを作成するなど，こんな時代だからこそ，新しい出会いと学びについて，発見していただけるよう，周知に努めてまいります。

7. 令和４年度　阪神くすのき学級芦屋教室

令和 4 年度は，芦屋市が当番市となるため，令和 3 年度の青い鳥学級同様に，芦屋ろうあ協会等の関係機関と適切に連携しながら，事業を進めてまいります。